

製品名: AMPK β 1 (リン酸化 Ser182) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab04229**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	38kDa

抗原情報

遺伝子名	PRKAB1
別名	PRKAB1; AMPK; 5'-AMP-activated protein kinase subunit beta-1; AMPK subunit beta-1; AMPKb
遺伝子 ID	5564.0
SwissProt ID	Q9Y478
免疫原	抗血清は、Ser181 のリン酸化部位周辺のヒト AMPK ベータ 1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 147-196

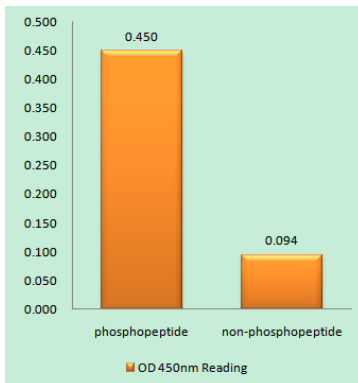
背景

この遺伝子によってコードされるタンパク質は、AMP 活性化タンパク質キナーゼ (AMPK) の調節サブユニットです。AMPK は、 α 触媒サブユニットと非触媒 β および γ サブユニットからなるヘテロ三量体です。AMPK は、細胞のエネルギー状態を監視する重要なエネルギー感知酵素です。細胞の代謝ストレスに応答して、AMPK は活性化され、脂肪酸とコレステロールの de novo 生合成の調節に関与する重要な酵素であるアセチル CoA カルボキシラーゼ (ACC) と β -ヒドロキシ β -メチルグルタリル CoA 還元酵素 (HMGCR) をリン酸化して不活性化します。このサブユニットは、AMPK 活性の正の調節因子である可能性があります。このサブユニットのミリスチル化とリン酸化は、AMPK の酵素活性と細胞内局在に影響を及ぼすことが示されている。このサブユニットは、AMPK 複合体の会合を媒介するアダプター分子としても機能する可能性があります。 [providedfunction:AMPK は、アセチル CoA カルボキシラーゼのリン酸化を介して脂肪酸合成を調節する。また、ヒドロキシメチルグルタリル CoA 還元酵素およびホルモン感受性リパーゼのリン酸化と不活性化を介してコレステロール合成も調節する。これは調節サブユニットであり、AMPK 活性の正の調節因子である可能性がある。また、触媒 α サブユニットのアダプター分子として機能する可能性もある。 ,PTM:リン酸化。 ,類似性:5'-AMP 活性化プロテインキナーゼ β サブユニットファミリーに属する。 ,サブユニット: α 触媒サブユニット、 β サブユニット、および γ 非触媒調節サブユニットのヘテロ三量体。 FNIP1 および FNIP2 と相互作用する。 ,

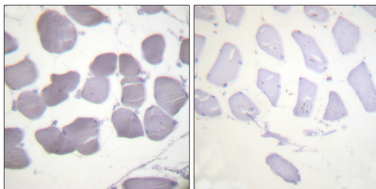
研究分野

AMPK

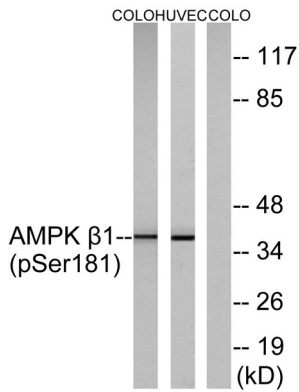
画像データ



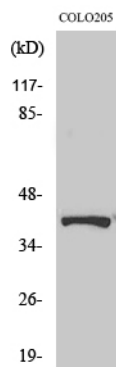
AMPK beta1 (リン酸化 Ser181) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定 (リン酸化 ELISA)



AMPK beta1 (リン酸化 Ser181) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト骨格筋の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



COLO205 細胞および HUVEC 細胞のライセートを AMPK beta1 (リン酸化 Ser181) 抗体を用いてウェスタンブロット解析した。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。



リン酸化 AMPK β 1 (S182) ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析。